

【ソーシャル・スキル・トレーニング6 仲間の入り方】

上級

1 プログラム名 「仲間の入り方」

2 指導のねらい

集団の中に入っていく時には、「拒否されるのではないか」という不安が伴う。そして実際に拒否されてしまうと、自己肯定感は大きく損なわれてしまう。このスキルでは、仲間に入るためには「自分から言葉をかけること」「状況に応じて、その言葉かけを変えていくこと」の必要性に気づき、仲間に入れてもらうための具体的な言葉を考え、実践できるようにさせたい。同時に、断られた時も「たまたま状況が許さなかっただけで、自分が否定されたわけではない」という気持ちを持てるようにさせたい。

3 獲得目標とするスキル

- ①入れてもらう時の非言語的側面（「相手の近くに行く」「相手の目をきちんと見る」「相手に聞こえる声で言う」「笑顔で言う」）を身に付ける。
- ②その場の雰囲気を考えながら、仲間に入るために具体的な言葉をかけられるようになる。

4 展開

場面	教師の発問（○）・指示（●）	生徒の反応・行動	留意点	時間
インストラクション	●今日は「仲間の入り方」を学び、身に付けましょう。 ●仲間に入る時には、「断られはしないか」という不安が頭に浮かんできます。そういう不安が生じると「仲間に入れて欲しい」という言葉を口にする勇気がくじかれてしまう場合もあります。でも勇気を出して「入れて欲しい」と言ったとき、相手が簡単に入れてくれたら、先ほどの不安が嘘のように無くなっていくものです。 ○さて、それでは「仲間に入れてもらう」とときには、どんなことに気を付けたらいいですか。 ●そうですね。そんなふうになかなか言えないものです。では、具体的な場面を使って練習したいと思います。「修学旅行の班別見学の班編制」をする場面です。	・笑顔で近づく。 ・やさしく声をかける。 ・はっきりと自分の気持ちを伝える。	工夫のポイント 学校生活の具体的な場面を想定させ、なぜこのスキルが大切なのかを考えさせることも効果的である。	5
モデリング	●それでは、実際に「仲間の入り方」の例をやってもらいましょう。 ・「好ましくない例」「よい例」の実施 ・「よい例」のどういうところがよかったか振り返る ●生徒の意見を板書し、整理していく。	・代表生徒は前に出て演じる。 ・他の生徒は、代表生徒の演技を見て、「よいところ」を確認する。	・「好ましくない例」と「よい例」の両方を演じさせる。 ・「好ましくない例」には深入りしない。	10
リハーサル	●それでは、実際にやってもらいます。近くの人と5人でグループを作ってください。グループができたら、「仲間に入る人1人」「仲間に入る人3人」「観察者1人」を決めて下さい。 ●役割が決まったら、黒板を見て下さい。「仲間に入る」ことで「よかったところ」は、○○でした。各グループで、そのよかったところを実施できるように、練習して下さい。 ●終わったら、どこがよかったか振り返って下さい。もしも仮に「こうしたらもっといい」というところがあったら、それも伝えて下さい。 ●それでは、もう一度やってみましょう。＜同じように5回繰り返す、全員がそれぞれの役割を経験する＞	・グループを作る。 ・グループごとにトレーニングを行う。 ・「よいところ」に注意しながら、再度行う。	・5人で割り切れない場合は、4人グループ、あるいは6人グループを作って、「仲間に入る人」の人数で調整する。 ・各グループの活動を観察し、必要に応じて指示する。 ・きちんと振り返りを行い、よりよい「入り方」ができるようにさせる。	25
フィードバック	●今日は、仲間の入り方について練習しました。○お願いしたのに断られてしまった時には、どんな対応をしたらいいのでしょうか？ ●お願いしたのに断られてしまったら、ちょっと傷付きます。でも、人にはそれぞれの都合がありますから、いつでもお願いが受け入れられるというわけではありません。仮に断られてしまったとしても、自分の人格を否定されたわけではありませんので、めげずに声をかけることを続けていきましょう。日常のいろいろな機会を利用して、声をかけてみてください。	・深入りしないで、「それじゃあ、次の機会は仲間に入れてね」と、次回の約束をする。 工夫のポイント グループ学習の機会を設け授業を通して学んだスキルを一般化させていく。また、仲間の誘い方と連結させて指導していく。	*スキルの獲得が不十分な場合は、再度リハーサルを行い、スキル獲得を支援する。 ・仲間に入りたいと言った時に、時には断られることもある。その時思い詰め、傷つく必要はないということを自覚させる。	10

5 その他

- ・「仲間の入り方」スキルは「仲間の誘い方」と関連付けて活用していくことが効果的である。学級の実態を見極め、孤立しがちな生徒や友だちと関わるのが苦手な生徒に十分配慮しながらプログラムを実施する。

板書例

仲間の入り方 「相手の近くに行く」「相手の目をきちんと見る」「相手に聞こえる声で言う」「笑顔で言う」「その場面にふさわしい言葉を口にする」

■仲間に入る時のポイント

- 言い出すタイミングをはかる。
- 仲間に入ることを断られた時の対処法をシミュレーションしておく。
- どの班に入るつもりなのか見極める。

■実施する内容

修学旅行の班別見学の班の仲間に入れてもらう場面

1 場面

- ・修学旅行の班を決めることになった。条件は男女混合で、各班6～7名。生徒たちは一斉に動き始めるが、生徒Aは、ひとりだけ行動を起こせずにいる。入りたいと思っている班に、声を掛けて入れてもらう場面。

2 場面設定

- ・生徒A 遠足の班に入れずに取り残されている生徒
- ・生徒B C D 生徒Aに声をかけて仲間に誘う生徒

3 リハーサルの流れ

- ・生徒Aは、どんどん班が作られていく中で、取り残されてしまっている。本当は仲間に入りたいのだが、引っ込み思案なので、自分からは言い出せないでいる。
- ・生徒B C Dは、集まって、修学旅行に行ったときのことを楽しそうに話している。
- ・生徒Aは、仲間に入れて欲しいと言う。
- ・生徒B C Dは、生徒Aが声をかけて来た時、基本的には「いいよ」と受け入れる。
- ・生徒Aは、入れてもらえたら「ありがとう」と言って、仲間に加わる。

■上手な仲間の入り方の特徴

例にならって、「上手な仲間の入り方」の特徴を記入しよう。

- (例) ○ 相手に近づいていく。
-
-
-

■仲間の入り方のシナリオ（例）

修学旅行の班別見学の班の仲間に入れてもらう場面

- ・クラスの生徒が、気の合う仲間で集まって、修学旅行の班をつくっている。なかには、もう楽しそうに修学旅行について話している人たちもいる。生徒Aは、どこの班にも属せないで、一人でぼつんとしている。でも、クラスの中で、いろいろと気にかけてくれる生徒Bのいる班に入りたいという気持ちを持っている。

生徒A：（生徒Bに近づき）「ねえ、Bさん。私まだ班が決まっていらないんだけど。よかったらBさんの班に入れてくれない？」

生徒B：「ごめんなさい。Aさんがまだ決まっていなかったなんて気付かなかった。私たちの班は、今6人だし、うるさい子ばかりだけど、それでもよかったら、どうぞ入っていいよね、みんな。」

生徒A：「どうもありがとう。よろしくね。」